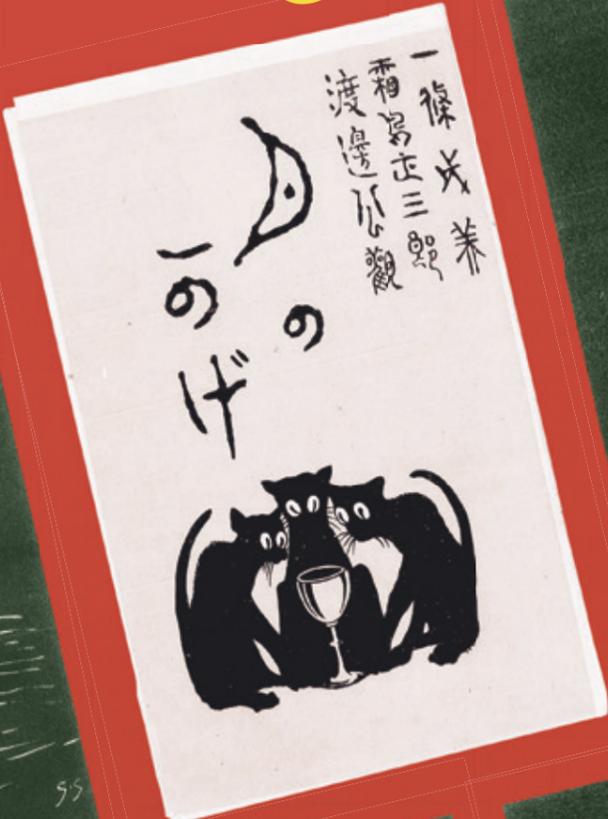


MEIJI MURA

明治村だより

115 2024 Autumn



CONTENTS

- 明治村の建築に視る日本近代青春群像物語〈十五〉
本郷喜之床、啄木と明治という時代のある断面
—蒼茫とあをめる柳… 02
- 北里柴三郎と近代日本公衆衛生の進展… 06
- 秋の催しもの… 04 明治村写真コンテスト 紙上演覧会… 08
- A La Meiji-mura 蝸牛庵の暗室… 10 機能的な台所へ… 11



明治村みらい基金

私たちの未来を豊かにする「明治」の価値
一緒に残し、伝えていきませんか

歴史的建造物を中心とした「明治時代からの贈り物」を未来へ残し続けるためには、多くの資金が必要です。明治村事業へのご支援をお願いします。



ご支援の内容

- ・本物の価値を残し、未来へ伝えるための展示建造物の維持・保存修理
- ・本物の価値を残し、未来へ伝えるための歴史資料の維持・保存修理
- ・未来の指針となる明治時代の価値を伝えるための展示(常設展及び企画展)
- ・明治時代製造の蒸気機関車及び京都市電の動態展示
- ・博物館明治村の事業全般

1回3,000円からご支援いただけます(マンスリーサポーターは月額1,000円から)
公益財団法人明治村へのご寄付は一定の「税制控除対象」となります。

ご寄付の方法

明治村みらい基金へのご寄付は、以下の方法で行うことができます。

- ・クレジットカード
- ・金融機関からの振込
- ・ゆうちょ銀行からの払込

詳しくは博物館明治村公式サイト内
「明治村みらい基金」をご覧ください。



協賛会員

(令和6年8月1日現在)

敬称略:五十音順

ゴールド会員

- 名鉄都市開発株式会社
- 矢作建設工業株式会社

一般会員

- | | | | |
|-------------------|----------------|----------------|---------------------|
| アイ工業株式会社 | アサヒ飲料株式会社 | アサヒビール株式会社 | 厚見建設工業株式会社 |
| 株式会社安藤・間 | 株式会社磯部組 | 株式会社伊藤園 | 伊藤忠商事株式会社 |
| 因幡電機産業株式会社 | 株式会社魚津社寺工務店 | 株式会社エムクリエイツ | NTT都市開発株式会社 |
| 株式会社NTTファシリティーズ | NTP名古屋トヨベツ株式会社 | 株式会社大林組 | 岡谷鋼機株式会社 |
| 株式会社オノコム | 鹿島建設株式会社 | 株式会社関電工 | キリンパレヅ株式会社 |
| 株式会社熊谷組 | 株式会社鴻池組 | コクヨマーケティング株式会社 | 五洋建設株式会社 |
| 合資会社斉木研磨工業所 | 株式会社ザイマックス | 佐藤工業株式会社 | サントリーコーポレートビジネス株式会社 |
| 株式会社シーイーテック | 柴山コンサルタント株式会社 | 清水建設株式会社 | 株式会社新高土木 |
| 株式会社スペース | スターツ東海株式会社 | 株式会社扇港電機 | ダイキン工業株式会社 |
| 大興建設株式会社 | 大成建設株式会社 | 株式会社竹中工務店 | 株式会社谷澤総合鑑定所 |
| 株式会社丹青社 | 中京テレビ放送株式会社 | 中部電力ミライズ株式会社 | 鉄建建設株式会社 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 株式会社東芝 | 東洋電機製造株式会社 | 戸田建設株式会社 |
| 株式会社中島工務店 | 西日本電信電話株式会社 | 西松建設株式会社 | 能美防災株式会社 |
| 株式会社長谷工コーポレーション | 株式会社日立製作所 | 株式会社ファミリーマート | 株式会社フジタ |
| 株式会社不動テトラ | ホーチキ株式会社 | 前田建設工業株式会社 | 三井不動産株式会社 |
| 三井不動産ビルマネジメント株式会社 | 三菱商事株式会社 | 三菱電機株式会社 | 名高土木株式会社 |
| 名鉄EIエンジニア株式会社 | 名鉄エアパートナーズ株式会社 | 株式会社森本組 | 株式会社ヤマキザイ |
| 株式会社LIXIL | 若松物産株式会社 | | |

「明治村だより」第115号(令和6年秋号) 令和6年9月13日発行

発行 博物館明治村
〒484-0000 愛知県犬山市宇内山1番地 電話(0568)67-0314 <https://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第116号発行のお知らせ

発行時期 令和6年12月下旬予定
「明治村だより」は、順次Webで公開させていただきます。詳しくは博物館明治村公式サイトをご覧ください。
※郵送サービスは終了いたしました。ご了承ください。

表紙について 絵はがき「月のかけ」画/一條成美、霜島正三郎、渡邊公観



博物館 明治村 × 文豪ストレイドッグス

BUNGO STRAY DOGS

迷犬見聞録 9.14 Sat. - 12.15 Sun.

博物館明治村を舞台に、様々な事件が巻き起こる——。3つの異なる時間軸の中で、新たな物語を体感しよう！

朝霧カフカ・春河 35/K ADOKAWA / 文豪ストレイドッグス製作委員会

「文豪ストレイドッグス」とは

中島敦、太宰治、芥川龍之介など実在した文豪の名を懐くキャラクター達が活躍する、異能バトルアクション作品。朝霧カフカ・春河35により2012年から「ヤングエース」に漫画を連載。TVアニメは2016年4月に第1シーズンの放送が開始されて以降、これまでに計5シーズン61話が放送された。2024年、TVアニメ放送八周年を記念した「八大企画」を展開中。

ストーリー

孤児院を追い出され餓死寸前の青年・中島敦が出会った風変わりな男たち——。白昼堂々、入水自殺にいそむ自殺志向の男・太宰治。神経質そうに手帳を繰る、眼鏡の男・国木田独步。彼らは、軍や警察も踏み込めない荒事を解決すると噂される「武装探偵社」の社員であった。何の因果か、巻を騒がせる「人喰い虎」退治への同行を求められる敦だが……。架空の都市ヨコハマ。登場するは、文豪の名を懐く者たち。その名にぞらえた異形の力が火花を散らす。奇怪千万の文豪異能力バトル、ここに開幕！



企画展 明治村文豪邂逅記

中島敦、太宰治、芥川龍之介…。

「文豪ストレイドッグス」に登場するキャラクターたちが抱き続ける「自己とどう向き合うか」「どう生きるか」という問い——。

近代の日本で活躍した実際の文豪たちも、日々これらの問題と向き合いながら、創作活動を行っていました。本展覧会では、文豪たちにまつわる直筆原稿や書簡、愛用品などととも、文ストキャラクターとの共通点を探しながら、彼らの秘めた想いと素顔に迫ります。

時間 9/14(土)～12/15(日) ※前期: 9/14(土)～10/29(火) 後期: 10/30(水)～12/15(日)

開場: 開村30分後 閉場: 閉村30分前

会場 千早赤阪小学校講堂 入場料 800円 ※小学生以下無料



泉鏡花『龍蜂集』見返し 大正12年(1923)3月 博物館 明治村蔵



夏目漱石愛用のシルクハット 博物館 明治村蔵



中島敦『草稿』李陵(レプリカ) 泉立神奈川近代文学館蔵 ※会期中、一部資料の展示替えを行います。

見て 体感! 明治村ののりもの

蒸気機関車12号が「蒸気機関車23号」に变身!

期間 9/14(土)～12/15(日) ※連休を除く

SLといっしょに記念撮影! 実施日 9/28(土)、11/3(日・祝)

SL石炭駅弁を販売! 実施日 10/12(土)・13(日)・14(月・祝)

蒸気機関車12号輸入150周年オリジナル缶バッジを販売! 販売開始 9/14(土)

体験乗車ができる国内最古のSL「蒸気機関車12号」が明治7(1874)年にイギリスより輸入されてから令和6(2024)年で150年、村内での運行開始50周年を記念し、明治村が保存する明治の「のりもの」をテーマに開催!

事前予約制 蒸気機関車23号撮影会 京都市電車掌体験 ※ご予約等の詳細は明治村公式HPをご覧ください。

特別公開 ※資料保護のため、見学人数を制限させていただきます。場合があります。

明治天皇御料車 昭憲皇太后御料車 儀装車
期間 10/12(土)～10/27(日) 期間 11/2(土)～11/17(日)
時間 ①10:30～12:00 ②13:00～15:00 時間 10:30～14:30

燈台記念日特別企画

通常非公開の燈台内部を特別公開するほか、明治初期に日本の海を照らした「燈台」と、船を安全に導いた「海図」の歴史をご紹介します。

期間 11/2(土)～4(月・休)

品川燈台特別公開 「燈台」と「海図」の歴史展示

時間 10:00～15:00 会場 北里研究所本館・医学館
協力 第四管区海上保安本部、(公社)観光会、(公財)海上保安協会東海地方本部

トークセッション 「本をつくる愉しみ～ブックデザインを読む～」

書店に並んだ本の第一印象を決める「装丁」。明治以降、夏目漱石や泉鏡花など多くの文豪たちが本の装丁にもこだわってきました。数多くの文学作品の装丁を手掛ける大久保明子氏を招いて、文学作品をどのように「本」としてつくりあげていくかを深掘りします。

応募 右記の二次元コードよりご応募ください。締切 2024/10/25(金)

※2名様まで応募可能(同伴者様の記載がない場合は1名様での応募とさせていただきます)。※当選発表は、当選者様へのご案内の送付をもってかえさせていただきます。



各イベントの詳細・お問い合わせ先 <https://www.meijimura.com> または 0568-67-0314 ※イベントは予告なく変更・中止となる場合があります。 ※イベントのご参加には別途入村料等が必要です。

与謝野の意見で雅号を啄木と改めた。翌年には十九歳となり、堀合節子との婚約が成立しつつも、啄木は人生上の悩みの中にいた。後の明治三十八年五月には、処女詩集『あこがれ』を刊行したが、掲載された詩は大部分この時期に刊行されている。詩人としての啄木の名は知られるようになったが、父一禎の失職、一家の盛岡への転住、節子との結婚などが重なり、啄木が生計のために発行した『小天地』は一冊雑誌で終わってしまった。小説執筆に活路を求めつつも、暗中模索が続き、追われるように函館へと新天地を求めた。その後も、文芸同人活動、代用教員、札幌・小樽・釧路での新聞記者など漂泊し、放浪し、脆弱した流浪の旅を続けたが、文学への志は止みがなく、明治四十一年四月、三度目の上京を敢行した。盛岡時代からの先輩で、最後まで啄木を支え続けた金田一京助と、本郷菊坂町赤心館で同宿し、小説の創作に没頭したが、稿料を得ることができなかった。そんな中で六月、神がかりのように歌心が興り、『一握の砂』の礎が生まれた。けれども下宿代が払えず、これも金田一の世話で本郷森川町蓋平館別荘(昭和二十九(一九五四)年消失)に共に移住することになった。『明星』は明治四十一年十一月に百号で終刊したこともあり、翌一月創刊の『スバル』の編集に携わる。明治四十二年の三月には郷里の先輩佐藤真一の世話で朝日新聞社の校正係に転職し、ようやく定収入を得るようになった。函館の友人に預かってもらっていた母と妻子を呼び寄せ、本郷区弓町二丁目十八番地新井こう方理髪店喜之床の二階六畳二間に落ち着いた。各々に二間の押入(写真5、出窓のある表側の部屋には一間の

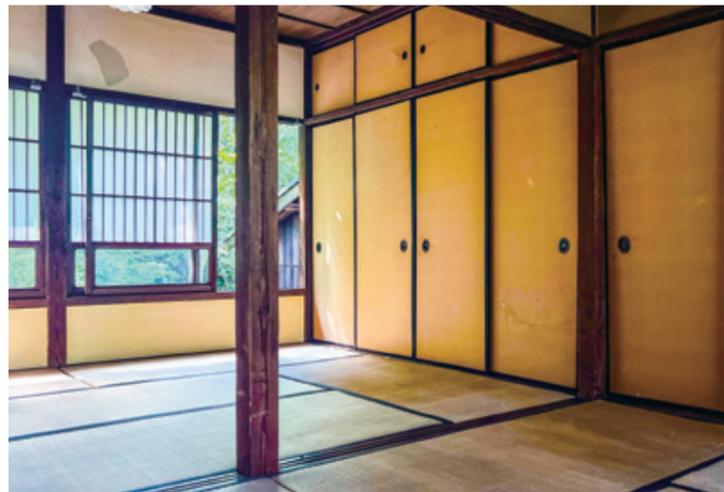


写真5 内観 裏側の六畳間 二間押入がつく

床が付いた写真6立派な新居であった。十二月には、父一禎も上京。詩論『食うべき詩』の刊行、翌年の朝日新聞社刊『二葉亭四迷全集』の編集校正、そして八月の評論『時代閉塞の現状』、十二月の『一握の砂』刊行は詩的精神の文学者として、社会思想家として、一歌人としての啄木の誕生と言ってよい偉業であった。この年の十月には、長男真一の誕生という喜びもつかの間、生後二十四日で夭折。悪夢は続くとはかりに、嫁姑の争い、妻の美家への避難、呼び戻しなど次々と苦難が訪れる。また、幼い長女京子以外一家三人が結核にかかり、二階への上り下りにも不自由となったことで、小石川久堅町七四番地に三間ほどの平屋の空き家を見つけて移る。宮崎郁雨の援助や妹光子の看護もあったが、一家の貧窮と不運を見かねるように父一禎が家出をするなど、啄木一家の短い平安は、まるで啄木の生

二 歌は悲しき玩具のパラドクス

涯を象徴するかのようにあつと言う間に消滅してしまった。明治四十五年六月、歌集『悲しき玩具』が啄木の死後二ヶ月にして、遺稿集のようにして刊行されている。内容的には、『一握の砂』の続編の位置付けであろうが、啄木が自らの歌を、悲しき玩具であると述べているところが意味深重である。

東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる

啄木は小説創作に、懸命な注力をしつつも報

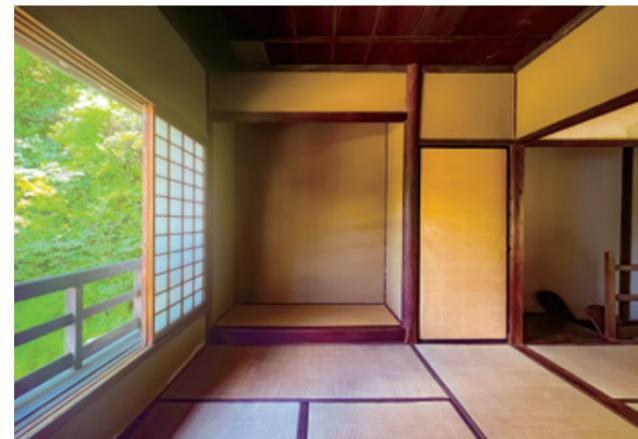


写真6 内観 出窓付きの六畳間

われることはなかったが、この蟹の歌は、誰もがよく知り、愛唱している歌の一つであろう。啄木が国民的歌人と、これまでも、そしてこれからも多分呼ばれ続けるであろう理由の一つに、誰の人生の一コマにでもありそうな分かりやすさの一方、そこに何か深い余韻が込められているからではないだろうか。この分かりやすさと深い余韻は、実は分かりやすいようで、分かりにくい。啄木は明治という時代の波乱万丈を、自らその底辺を這うように、それに翻弄されつつ、一方で自愛の亀裂から生まれ出たかのようなある種の聡明さをもつて俯瞰していたのではなかったか。「蟹とたはむる」の歌も、「蟹」という題詠によつて歌われたとのことである。がっかりするような、納得いくような事柄である。金田一京助は最後まで啄木を愛しぬいた人だと言えそうだが、その妻と子は、「石川五右衛門とは啄木の祖先ではないか」と嘆息している。ことほどさように啄木は分かりやすく、分かりにくい。これからも啄木の歌は愛唱されていくだろう。それとともに、「本郷喜之床」はその二階の部屋で、啄木が最も安息し、かつ苦悶した短い日々を偲ぶよすがである。明治という時代は封建的遺制の残存のために、それと闘う社会主義思想は青年層をとらえた。一方で近代への憧れは、近代的自我の確立や芸術文学の意識を、とりわけ貧しく機会から遠ざけられた青年に植えつけた。その意味で、明治という青春の時代の申し子こそ、啄木であったのではないだろうか。啄木の歌と本郷喜之床が語り継がなければならない由縁である。

註 「石川啄木年譜」臨時増刊文芸「石川啄木読本 一九五五年河出書房」 「明治村石川啄木展」石川啄木年譜「明治村通信」一九八〇年

北里柴三郎と

桃山学院大学図書館長・同法学部教授

小島 和貴

近代日本公衆衛生の進展

医学との出会いと 疾病等予防への関心

「鎖国」を進める徳川政権下において西洋の学は制限されていたが、第八代將軍徳川吉宗の漢訳洋書の解禁などの政治・行政改革は近世社会に西洋医学の知見を広めることとなった。幕末を迎える頃にはそのテキストが読まれ、洋学のための私塾を運営する緒方洪庵などが活躍したことで、人々の西洋や西洋医学への関心が高められていった。明治への改元の直前には西洋医学の日本への解禁が新政府により承認され、そのための医学校や病院の開設の必要性が共有されることとなる。

近代日本における医学校等やさらには公衆衛生の文脈でしばしば登場する長与専齋（写真1）は、緒方洪庵が主宰した適塾での学びを終えると長崎遊学を決め、オランダ人のマンズフェルト（写真2）と共に推進した医学教育制度の改革が評価された後には、西洋の「健康保護」の活動を日本に取り入れるべく奔走する初代内務省衛生局長として知られるようになった。



北里柴三郎

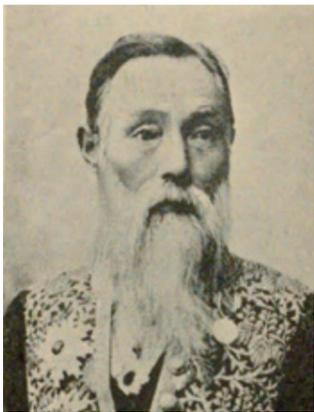


写真1 長与専齋(出典:近代日本人の肖像)

一方、マンズフェルトは長崎を後にすると熊本に赴き西洋医学教育の一端を担う。この時の学生に北里柴三郎がおり、北里は西洋医学への扉をこの外国人と共に開き、さらに研鑽を積むべく東京大学医学部（東京医学校）に転じた。そして医学への関心を高める中、治療のための医学に加えて、疾病等の予防のための医学が必要であることを強調するようになる。しばしば医学や医師には、疾病等に対する治療を施すことが期待され、医者―患者の1対1の関係性の中に医療の効果を認めようとするのである。しかし北里は医学生の際よりこれに満足することなく、疾病等の予防が重要であることに注目しながら医学や医師の役割について大いに議論し、「医道論」(明治十一―一八七八)年を執筆し、

筆し、疾病等の予防あるいは「健康保護」を求め、それを必要とするのであった。疾病等の予防の重要性に気づき、これを実践に結びつけた長与や北里の活動を踏まえることなく、人々の健康の実現を目指す近代日本公衆衛生を語ることは困難となる所以である。

「衛生官僚」となる

北里が医学の学びを進めていた頃の日本では、「変則医学」と「正則医学」の別があり、前者が日本語に翻訳された西洋医学であったのに対し、後者は西洋の医学を直に習得しようとするところに違いがあった。東京大学で学ぶ北里は後者であり、ここに集う医学生が卒業すると各地の病院長の職を用意されたという時



写真2 マンスフェルト(画像提供:学校法人北里研究所)

代であったことから、北里も東京大学医学士として、日本の医学の普及と医師の養成に尽力し、文部省に連なる日本医学界の「主流派」としての道を歩むという選択肢は用意されたのであるが、これを受け入れることはなく、「健康保護」事業の陣頭指揮を執る長与専齋率いる内務省衛生局長の官僚となることを決意する。明治十六年のことであった。

長与専齋は「健康保護」には医学等学術を「政策的に運用」することが肝要としていた。内務省衛生局長はまさに「医の政治」の実践場であり、北里はここで医学の知見とこれに基づく政策を活用して「健康保護」に取り組むこととなったのである。

ところで幕末から明治初期にはいくつかの感染症の被害を受けたが、中でも「三日コリ」と称され、短時日のうちに発病から死に至るコレラは人々の関心を呼んだ。特に明治十二年の流行は実に十万人以上の死者を出し、人々を塗炭の苦しみに追いやった。こうした事態が政府に衛生行政改革の必要性を認めさせると、府県の衛生課や町村の衛生委員の設置が進められることとなる。しかし行政組織を整えることで感染症の撲滅が実現するほど単純ではなく、確かな行政上の権能と組織に加えて人々の



図1 流行悪疫退散の図 井上探景/三宅半四郎版 明治13(1880)年

医学校を経て愛知県医学校病院で活躍した。そして北里や長与とはほぼ時を同じくしてやはり疾病等の予防の重要性に気づき、実践に繋がっていたことが長与の欲心を買った内務省衛生局長の官僚となっていた。日本の「健康保護」を語る上で、「衛生警察」や「私立衛生会」が重要となるが、こうした事業を明治政府や愛知県などと連携しながら実践したのが後藤新平であり、近代日本衛生行政の形成にとって後藤の活動は捨象することはできない。そのため愛知県医学

校長・病院長として医学・医療の普及とその後進の養成に尽力するだけでなく衛生行政の立ち上げの一角を占めたという点に着目するならば、後藤は医療衛生領域における「愛知・名古屋の偉人」と表現しても過言ではない。

後藤は愛知県医学校・病院にお雇い外国人として赴任していたローレツ（写真4）やその訳官として随行し外国語の達人と評された司馬凌海の影響の下、西洋医学に理解を深めていったものの、そもそも後藤が須賀川医学校で触れたのは「変則医学」であった。「正則医学」に触れ、医学

士の学位も有する北里はこの後藤の部下でいることに釈然としなかったようであるが、入局後、ほどなくして日本国内においてコレラ菌を確認するなどの成果が注目されるようになる。明治十五年のコッホ（写真4）のコレラという疾病とコレラ菌の関係についての研究が世界に喧伝されると、コレラはコレラ菌によって引き起こされるものであるという理解が浸透し、北里が日本でもコレラ患者からコレラ菌を確認するという成果をもたらすこととなったのである。コレラ患者やその患者が触れたものに接するとコレラになるなど経験的にコレラを理解するのは異なり、コッホや北里の取り組みのこうした医学の姿勢を「laboratory medicine」あるいは「実験医学」や「実験室医学」と称することがある。北里は「衛生官僚」とし

伝染病研究所と 大日本私立衛生会

ドイツでの成果でこれまでしばしば紹介されてきた破傷風菌の純粋培養の成功など北里の「実験室医学」への取り組みは、恩師であるコッホからの信頼を得ることに繋いだ。そして日本から西洋世界に飛び込んだ内務官僚北里は、明治二十五年に帰国する頃には「世界のキタサト」と称されるほどになっていた。ところが最先端の西洋医学を学び、日本の医学を西洋の水準にまで押し上げた北里が帰国するも、その実力とは関係なく活躍の場は用意されていなかった。内務省にあって北里の才覚に期待する長与専齋やその「懐刀」であった後藤新平は、その場を用意するべく奔走するが十分な成果を得ることはできなかった。そこで長与が適塾以来の盟友である福澤諭吉に相談すると、福澤はこれに理解を示し、伝染病研究所（以下「伝研」と記す）を立ち上げて北里を支援するのであった。北里はこの「伝研」を足がかりとして大いに研究し、多くの有為な人材を育成することとなる。北里は終生、福澤に対する感謝の念を隠そうとしなかった。

「伝研」での研究は北里が担ったが、その運営は、長与が尽力し北里の内務省衛生局長への入局と同じ年に設立された大日本私立衛生会に委ねられる。北里を語る際、この「伝研」での活動は大いに取り上げられるのであるが、これは対照的に大日本私立衛生会での取り組みにつ

後藤新平

北里が入局した時の上司に後藤新平（写真3）がいた。後藤は岩手県生まれであるが須賀川

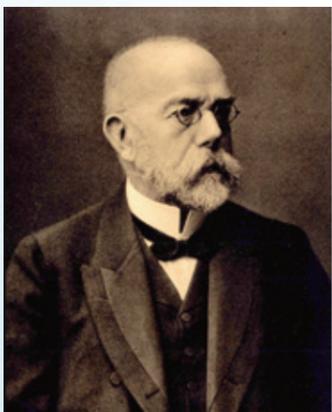


写真4 コッホ(画像提供:学校法人北里研究所)



写真3 後藤新平(出典:近代日本人の肖像)

明治村 写真コンテスト 明治村百景

令和5年7月から令和6年6月までにご応募いただいた明治村写真コンテスト「明治村百景」の受賞作品の一部をご紹介します。四季折々に姿を変える明治村の風景をとらえた作品や、明治村ならではの催し物、歴史的建造物を斬新な視点で切り取った作品をぜひご覧ください。(敬称略)



明治村大賞「いくとしつき」井上 香苗



明治のある風景賞 特賞
「白煙にまかれて」
赤石 光男



鉄ショット賞 特賞
「Majesty」
加藤 禎之



フェスティバル賞 特賞
「しゅわしゅわ!! 夏だね!!」
三須 美樹



季節のうつろい賞 特賞
「瑞々しく輝く」
上野 仁

9月21日(土)から12月15日(日)まで東山梨郡役所2階にて入賞作品展開催!

入賞者一覧					
賞名	タイトル	撮影者	賞名	タイトル	撮影者
明治のある風景賞 入賞	朱に染まる	小川 裕之	審査員特別賞	明治の門をくぐる少女の物語	徳元まいね
鉄ショット賞 入賞	明治の車窓	丹羽 明仁		力走	三浦 淳司
フェスティバル賞 入賞	真夏の競演	石井 正俊		一瞥	伊良原弘也
季節のうつろい賞 入賞	京都市電	太田 正平		借り暮らしの啄木	河内 聡
坂の上の雲ミュージアム賞	春情	吉川 徹		グリーンベール	倉知 明未
坂の上の雲ミュージアム賞	春の吐息、冬聖堂	掛布 巳幸		バスを待つ	木村 裕親
坂の上の雲ミュージアム賞	真夏のリフレクション	中世古里名		秋の情景	服部 哲治
坂の上の雲ミュージアム賞	煙に包まれる看守塔	濱田 修		明治の錦	橋本久美子
坂の上の雲ミュージアム賞	ノスタルジック	村松 真希		異国情緒	山田 恵美
ハクバ写真産業賞	赤い絨毯	沖林富士夫		レンガのアーチ	日浦 真人
ハクバ写真産業賞	逢引の場所	白鳥 和彦			

現在も作品を募集しています。詳しくは明治村公式HPをご覧ください

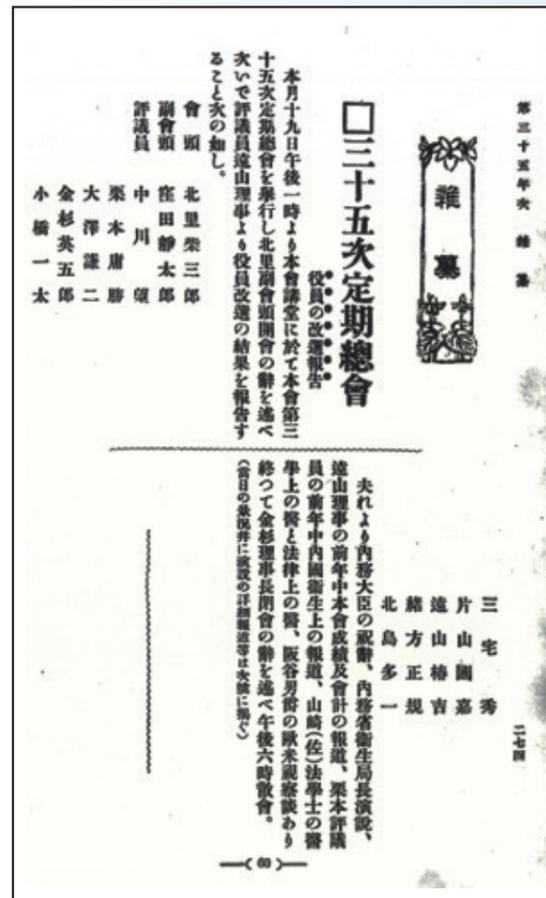
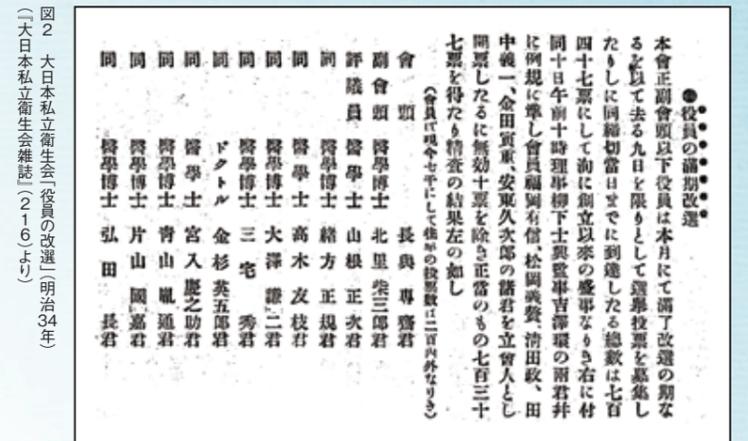


図3 第35次定期総会「役員改選報告」(『大日本私立衛生会雑誌』(409)より)



本会正副会頭以下役員は本月にて満了改選の期なりを以て去る九日を限りとして選挙投票を募集したりしに同種切當日までには到達したる總数は七百四十七票にして海に創立以來の盛事なりき右に付同日午前十時理事榑下士典監事吉澤環の両君并に例規に準し會員榑岡有信、松岡義賢、清田政、田中義一、金田寅重、安東久次郎の諸君を立會人とし開票したるに無効十票を除き正當のもの七百三十七票を得たり精査の結果左の如し

(會員改選七十七に於て投票の投票数は二百内外なり)

會頭 榑岡有信 長興 榑岡有信
副會頭 醫學博士 北里 柴三郎君
評議員 醫學士 山根 正次君
醫學博士 緒方 正規君
醫學士 高木 友枝君
醫學博士 大澤 謙二君
醫學博士 三宅 秀君
ドクトル 金杉 英五郎君
醫學士 宮入 慶之助君
醫學博士 青山 龍通君
醫學博士 片山 國富君
醫學博士 弘田 長君

夫れより内務大臣の祝辭、内務省衛生局長長演説、達山理事の前年中本會成績及會計の報告、栗本評議員の前年中内務衛生上の報告、山崎(佐)法學士の醫學上の概と法律上の醫、阪谷男爵の歐米觀察談あり終つて金杉理事長開會の辭と述べ午後六時散會(當日の集會并に投票の詳報等は別紙に附)

三宅 秀
片山 國富
山根 正次
緒方 正規
北里 柴三郎
北里 多一

明治二十八年、大日本私立衛生会の進める衛生事務講習所講習会が開始されると北里もこれに賛同し、地方衛生行政実務家の育成にも携わる。この講習所の衛生事務講習は、三箇月にわたる講習を年二回開催し、各回の定員を三十名とするとして出発した。講習への参加予定

いは意外なほどに語られることが多くはない。大日本私立衛生会では、審事委員として専門的な立場から様々な問合せに応じ、コレラやペストなど感染症のことについて講演するなどしたが、これにとどまらず、明治三十四年、設立以来、副会頭として献身的に同会を支えた長与専齋が会頭に就任すると北里はこの長与の職責を引き継ぎ副会頭となり(図2)、そして大正六(一九一七)年の第三十五次定期総会では会頭に選出されることから明らかなように(図3)、長きにわたり同会の運営の中心に位置した。

衛生事務講習所の人材育成

衛生事務講習所講習会が開始されると北里もこれに賛同し、地方衛生行政実務家の育成にも携わる。この講習所の衛生事務講習は、三箇月にわたる講習を年二回開催し、各回の定員を三十名とするとして出発した。講習への参加予定

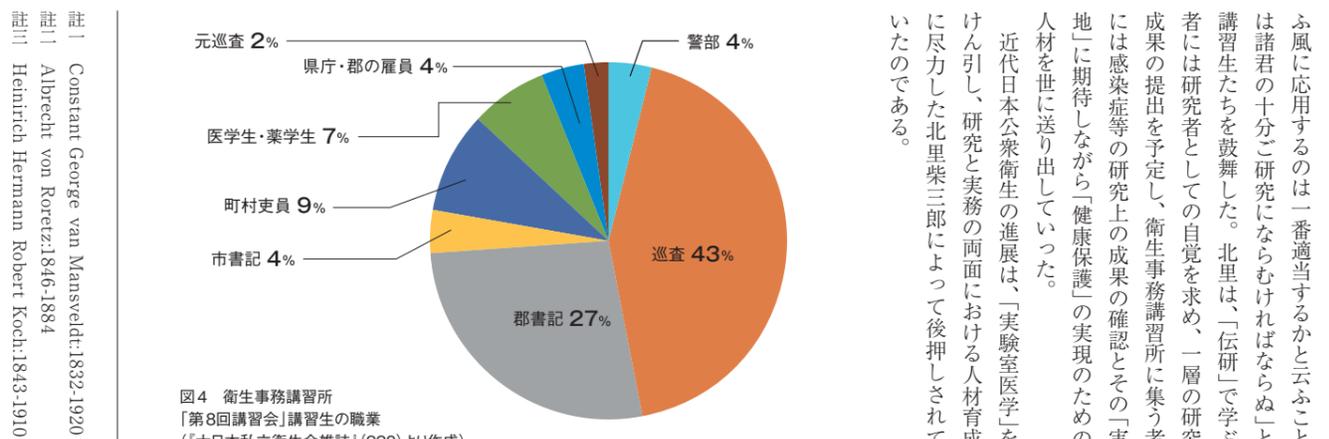




写真1 坐漁荘の台所



写真2 漱石住宅の台所



図1 志ん板勝手道具展
（政信画 一八八四年）



機能的な台所へ

3丁目27番地
西園寺公望別邸「坐漁荘」

最後の元老西園寺公望が政治の第一線から退いた後、晩年を過ごした「坐漁荘」。高齢の西園寺に配慮された工夫が所々に見られる数寄屋造りの風流な建物です。この建物は、大正九（一九二〇）年に創建され、昭和四（一九二九）年に洋間、サンルーム、湯殿、台所などが増築されています。今回は、昭和年間に増築された台所に注目します。かまど以外は一見すると私達が見慣れた、現代とさほど変わらない台所で

す（写真）。しかし昭和初期当時としては、機能的で理想の台所だったのです。明治村では明治時代の台所もご覧いただけますので、比較しながら明治から昭和にかけての台所事情を紐解いていきましょう。

台所をご覧いただける代表的な建物は坐漁荘以外に、森鷗外・夏目漱石住宅、東松家住宅があります（以下、漱石住宅、東松家とする）。漱石住宅は明治時代の中流階級の家で、漱石の名著『吾輩は猫である』の舞台とされています。現在はこの小説等をもとに、一般的な明治の台所の様子を再現展示によって伝えていきます。乃ち、一段下がったところにかまど、土間に水瓶（註一）、流しがあつたと考えられており、板間にしゃがみ、米を研いだり野菜を洗っていたようです（写真）。調理も当時は床の上で座って行っていました（図）。東松家でも同様に、通り土間にかまどがあります（写真）。漱石住宅が明治二十（一八八七）年頃、東松家一階は江戸末期頃建てられたとして、明治になって台所は土間にかまどや流しがあり、前時代と大きく変わらなかったようです。

では坐漁荘の台所はどうでしょう。かまども流しも板間の上がり横並びで、床から約八十センチメートルの高さにあります。洗い物も煮炊きも立ったままできる高さとなっています。また、坐漁荘では増築にあわせて水道を引いており、蛇口つきの流しです。そして、台所中央には引出しや戸棚がついた調理台があります。かまどや流し、調理台がコンパクトにまとめられ、立ったまま調理ができる動線が確保されているのです。

坐漁荘が建てられた時期というのは、知識人の中で台所改善の議論が盛んになされていました（註二）。当時は、女性が一手に家事を引き受けていた時代。便利な家電もありませんから、女性の家事労働は相当なものでした。土間と板間を入ったり来たり、先述の通り調理はしゃがみこんで行っていたため、立ったり座ったりの動作もあります。そうした家事の負担を減らし効率化をはかるために、「しゃがみこんで調理をする」とことが改善の対象となりました。また、調理を板の間で行うのは「不衛生」ということも叫ばれていました（註三）。明治という新しい世になっても、時代に取り残されたままだった台所が大正から昭和初期にかけてようやく



写真3 東松家の通り土間



蝸牛庵の暗室

3丁目26番地 幸田露伴住宅「蝸牛庵」

「明治村だより」一一三号で、中川館長が幸田露伴住宅「蝸牛庵」について記述していますが、今回は暗室に焦点を当てて紹介します。

明治村に移築された幸田露伴住宅「蝸牛庵」は、現在の東京都墨田区向島にあった、明治初年ごろから酒類商甲州屋を営んでいた雨宮家が隠居屋として使用して



写真1 「橋場渡」幸田露伴撮影



図 蝸牛庵一階平面図（移築前）

いた住宅です。蝸牛庵という名は露伴の号の一つで、引越しをすることが多かった露伴は自宅をカタツムリの家を意味する「蝸牛庵」と呼んでいたため、この住宅は所在地の名を付けた「向島蝸牛庵」とも呼ばれています（註一）。幸田露伴は明治三十（一八九七）年から約十年間この住宅を借家し、この間に『太郎坊』『天うつ浪』を執筆しています。

露伴は執筆活動の傍ら多くの趣味に興じていました。中でも、川釣りと写真に精を出していたようです。露伴の『新羽衣物語』は、写真機を初めて取り上げた小説となっており、露伴が写真に興味をもったことを窺わせます。また、露伴が向島蝸牛庵に住んでいた頃の文壇は紅露時代と呼ばれており、尾崎紅葉と幸田露伴の二人の作品が流行した時代でした。その両者とも写真を趣味としており、当時輸入された写真機を、高価であるのにもかかわらず早く入手し、撮影から現像まで行っていたようです。

当時の写真は、乾板写真といって撮影か

ら現像までは以下の作業が必要になります。

- ① 感光する写真乳材を塗布し、乾燥させたガラス（以下、乾板とする）を用意する。
- ② 乾板を写真機にセットし撮影する。
- ③ 撮影した乾板に現像液を浴びせる。
- ④ 現像具合が良いタイミングで現像液を水で洗い流し、白黒が反転した写真（ネガ）を作成する。
- ⑤ 定着液に浸し、白黒を戻した写真（ポジ）を作成する。
- ⑥ 定着液から引上げ再び水で流し、乾燥処理をする。

撮影後の現像の作業は光が入ると筋ができ、きれいにできないため暗室で行われます。

「寫眞用建築」には、アマチュア用暗室として押入を改造するものが挙げられており、給排水設備が難点として挙げられています。約九十センチメートル幅の押入の改造例として、「押入の扉内に黒色カーテンを引いて光線を遮断する。上より薬缶、暗室ランプ、仕事臺、材料棚、バケツ其他水を入れるものを床に置く。水洗ひその他は流し又は湯殿を利用するものである。」（註二）と設備の配置について書かれています。

移築された蝸牛庵にも写真を現像するための暗室が設けられています。この暗室は、露伴が趣味のために借家中に改装したものではないかといわれています。暗室は片開き戸がつけられた半畳ほどの空間で、当時の建物の東側面に設けられています。この暗室には、流しと赤いガラスが



写真2 蝸牛庵の暗室

はめ込まれた採光用の小窓があります。野田宇太郎氏が昭和三十三年（一九五八）年に移築前の蝸牛庵を訪れた際、暗室を確認し、「雨宮家では其後何にも使用せずに、殆ど昔のまま、がらん洞にして保存している。」（註三）と所有者である雨宮家に未改装であることを確認しています。つまり、露伴が転居した後、解体される直前まで、現地でそのまま保存されていたと考えられます。現在、明治村で見られる暗室は露伴が趣味のために改装したものと考えられます。当時、個人でこのような暗室を設けている例は数少なく、幸田露伴住宅「蝸牛庵」にある暗室は小さいながらも当時かなり珍しいものであったと考えられ、暗室からも住宅の保存意義が感じられるのではないのでしょうか。

註一 「寺島蝸牛庵」とも言う。
註二 「寫眞用建築」三六―三十七頁より引用
註三 「日本文学の旅―東京文学散歩隅田川編」一―三頁より引用

参考文献
（1）野田宇太郎一九六七年『日本文学の旅―東京文学散歩隅田川編』
（2）博物館明治村一九七二年『明治村通信』二十四号
（3）博物館明治村一九八二年『明治村通信』一四一―一四二号
（4）岡田哲郎一九三六年『寫眞用建築』（最新写真科学大系）

註一 明治三十九年に漱石の子供が赤痢に罹ったことにより、以後、漱石住宅は水道を引いている。
註二 「生活改善の第一歩は台所から」と申しますが、実際一家の経済と衛生上の見地から之れが改善は最も必要な事柄で文化の中心は台所であると思ふのであります。（京都府社会課編一九二九年『台所改善』京都府社会課）
註三 「第一にその内に働く人が、上下の方向距離の成るべく少なきを要す。されば（一）流し、料理臺、竈、七厘等を立ちたる儘にて、理想的に云はば腰を少しも曲げずして、使用出来るやうにあるを要し」（井上秀子一九二七年『現代家事教科書』）、「…小住家には往々坐式の流しが設けられたが、どちらか非衛生的であり、且つ作業に不便なため、臺所の能率を低下させ易い。臺所の床はなるべく他室の床と高低を少なくし、作業はすべて立脚式にすべきである。流し、料理臺、食器戸棚、竈、冷蔵庫などはすべて立脚式のものを用ひ、調理や食器の洗滌、整理などが手順よく進ぶやうに配置すべきである」（大日本図書株式会社一九三〇年『最新家事教科書改訂版』）※著者は著者によるもの。
註四 「都市に於ては電気や瓦斯水道等を適度に應用して衛生上は勿論経済的に併かも美観を添へての改善が普及しつつあるが、…農村の状況を観するに殆んど古代の遺物とも申しませうか（京都府社会課編一九二九年『台所改善』京都府社会課）

主な参考文献
（1）高橋昭子・馬場昌子一九八六年『物語ものの建築台所のなほ』鹿島出版会
（2）小菅桂子一九九一年『「つぼん」台所の状況』田中貞太郎一九三二年『西園寺公望伝』改造社